

●わが国の人口の 70 パーセントは都市に住んでいるといわれております。これは、総人口1億人のうちの実に7000万人の人々が都市に住んでいるということになります。戦後の産業構造の変化に伴い都市人口の増加が著しいことは多年いわれてきたことですが、社会資本の不足が喧伝され、貧しい中からそれ相応の投資を続けている割合には生活環境が充実してゆかないことも、ふえつつける都市人口を考えてみればある程度うなづけます。トンネルを掘り、橋をかけ、発電所などをつくりつつけてきた土木技術者の多くも、この時代の流れにそって近時山をおりてきて、いまでは“都市土木”と呼ばれる工事。多くの人々の住む街で、地下鉄や上下水道、そしてエネルギー施設などをつくり、高速道路や港を生みだしております。

これらの工事は、多くの先輩が経験したことのない新しい型の土木工事です。そして、都市はそれらを要求して、今日も膨張してゆきます。

都市をつくる——そのためには、いままでの知識に加えて、健全な社会人としての素養と豊かな人間性が土木技術者に要求されております。土木技術者がつくりだすものが、深く大きく毎日の生活に影響する都市は、土木技術者に都市で生起している諸問題に対する正確な展望とすみやかに適確な判断を要求しているのです。

すでに遅いのかも知れませんが、今般会誌編集委員会は“都市”に対するいろいろな問題を扱ってゆくことにしました。学会誌の性格上、複雑な都市問題を土木工学のスクリーンをおして扱ってゆくこととなりますが、将来のあるべき生活の場を求めて、ともに考えてゆきたいと考えました。

都市——交通・土地・水資源・環境保全等々、かかえている問題はいずれも難問ですが、今回はまず最初でもありますので、さしあたり総論編ともいうべき性格の特集としました。次回 10 月号の都市交通特集の前段としても熟読されることを期待いたします。

会誌編集委員会



●特集

都市